

# 学校だより

## ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

14925 Memorial Drive, Bldg A, Suite 130, Houston, Texas 77079

Tel. 281-493-1512 / Fax. 281-531-6730 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@airmail.net Home Page: www.jei-houston.org

### 健やかな成長を願って ～高く泳ぐや鯉のぼり～

5月5日の『こどもの日』に合わせて、小3B担任の土本さゆり先生が鯉のぼりを持ってきてくれました。

2校時までは、小3B教室横の階段に泳がせて？いましたが、その後、中庭の2階に吊しました。

適度な風が中庭を舞って、気持ちよさそうにゆらゆらと泳いでいました。



【小3B横の階段】

「た～かくお～よ～ぐや こ～い～の～ぼり」と「鯉のぼり」の歌詞のようにはいきませんが、この地であって、鯉のぼりを見ることができたことを、子どもたちはとても喜んでいました。子どもたちだけではなく、気づいた大人たちもそうかもしれません。私もその内の一人で、中庭に吊しながら、「鯉のぼり」を口ずさんでいました。小学校の高学年の音楽で教えてもらったことを覚えています。

麓(いらか)の波と雲の波  
重なる波の中空を  
橘かおる朝風に  
高く泳ぐや 鯉のぼり

今は、「屋根より高い鯉のぼり・・・」の「こいのぼり」のほう主流になって、なじみ深い歌になっているかもしれません。



鯉のぼりの他に、ヒューストンでも、男の子がいる家では、兜(かぶと)や五月人形が飾られている家があることでしょう。この他、私の地元では、毎年、銭湯を借りて、菖蒲(しょうぶ)の根や葉をお風呂に入れ、子どもたちに菖蒲湯を体験させている幼稚園があります。

日本にいたとき、家で菖蒲湯を経験したことがある人もいることでしょう。今、『こどもの日』は男女関係なく、子どもたちの健全な発達を願うというイメージが定着しています。



鯉が滝を昇ると龍になるという中国の伝説のように、心身ともに大きく成長して欲しいと願っています。

### 伝承される教育や文化

ご存じのように、補習校の教育目標は2つあります。1つは「国語、算数(数学)の基礎的知識を身につけさせる」こと、もう1つが「より一層国際的感性を高めさせる」ことです。

2つめは活字にすると抽象的なので、子どもたちの立場から、「自国(日本の)文化を知り、米国文化も知り、コミュニケーション能力を高め、世界の現実を知る」こと、と私は解釈しています。

週1回、ささやかではありますが、そのための支援をすることが私たち教職員の使命なのです。

幼稚園や低学年の子どもたちが多量の中、様々な経験、体験によって、どこまで国際的な感性が高められるかわかりませんが、自文化を知り、他文化を知ること、違いを認め、互いのことを尊重する精神は、年齢を問わず養うことができます。



『こどもの日』の背景を知ること、この日に関係した言葉や習わしを覚え、自分の国の文化を知ることになります。突き詰めていけば、鯉のぼりが、「国際的な感性を高めさせる」ための第一歩となる「自国文化を知る」という教材になったことはまちがいありません。このような機会を数多く提供していくことが補習校の役目であり、原点であり、子どもたちは知らず知らずのうちに、日本人としての資質を身につけていくことになると思っています。

学校や家庭で身につけた、教育や文化は、必ずや次代に引き継がれていきます。

## まずは、「聞く」 ～1枚の写真から～

廊下を歩いて、にぎやかなクラスがあると、そっとのぞいてみたくなります。「沸き立つような授業の盛り上がり」であったり、「決まりを無視して、口々に先生に質問している場面」であったりします。

国内において、「子どもたちが集中できない。」「子どもたちに話を聞いてもらえない。」「指示しても言うことを聞かない。」などといった教師からの声がありました。教師が繰り返し注意しても、その効果がないものだから、ついつい大きな声で叱ることになってしまいます。教師の声がつぶれてしまいます。ひどい場合は、そのつぶれた声をネタに盛り上がってしまうという悪循環さえ起こります。そうすると、授業どころではありません。学級崩壊の一步手前になります。

5校時は5学級の授業を教室の入り口からのぞかせてもらいました。

写真は授業が終わりかけている時間帯に巡回し撮ったものです。学習内容はわかりませんが、子どもたちが、しっかりと聞いていること、聞く姿が良いことから、日本の授業を思い出し、カメラを取り出しました。



話を聞くと言うことは、本当に大切なことです。物事は、まず聞くことから始まります。聞くことで、することがはっきりします。間違いなく動くことができます。反対に、指示されたことができない子は、指示されたことをする能力が低くてできないのではなく、話を聞いていないからできないことが大半の理由です。(話を聞くということも能力の一つかもしれませんが・・・)

カメラを子どもたちに向けたときは、「話す人を見て聞くこと」ができるレベルより、もう一段高い、「話す人の目を見て聞くこと」ができていました。

これが定着すると、「話す人の内容にうなづくこと」ができたり、聞くだけではなく、「人の話した内容をまとめて言うこと」ができたり、「人の話の内容について自分の考えを持つこと」ができるようになっていきます。こうした繰り返して、人の話した内容に合う行動がとれるようになっていたり、人の話から考えた行動ができるようになっていきます。

次に、聞く姿勢です。教室の机と椅子の大きさが、決して子どもたちの体に合っているとはいえません

が、自分たちがとれる一番良い姿勢で話を聞いているように見受けられました。立派な姿勢です。子どもたちの授業中の姿勢は、学習面において気になっていたことの一つでした。指導なくして、初めからこのような姿勢はできません。

## 授業で話し合いができる学級づくり

補習校で日本と同じ授業を求めることは、いろいろな制約があり、とてもむずかしいことだと思います。どこまで日本と同じように学習内容を深められるかは、各々の教員の力量にかかっており、教員が日々努力しているところです。

聞く姿勢作りは、教員の指導なくしてできるものではありません。これができるように意図的に子どもたちを育てなければなりません。1年かけて高いレベルの聴く姿を求めていかなければなりません。聞く姿から聴く姿になるように育てなければなりません。聞く姿が聴く姿になったと感じたときは、話す姿や語る姿もできているかもしれません。これが日本の「授業で話し合いができる学級」のもとであり、1枚の写真から、「聞く」という授業の原点を思い出させてくれることになりました。

私自身、「自分の学級が騒がしいなあ。」「子どもたちは言うことを聞かないなあ。」そのために、「自分は教師として力量がないなあ。」と何度も思ったことがあります。先輩の教師から、「誰がどんなときに集中できないの?」「集中できない子を授業の中で生かすことはできないの?」と、問いかけられ、それまでの自分の分析が非常に甘かったことと、一人ひとりを授業の中で生かすことを深く考えるようになりました。話をよく聞くと反応が早くなること、正確に聞き取ると確かな反応ができることを体験的にとらえさせ、できたときに誉めることができるようになったのは、それから随分経ってのことでした。余談になりました。

## ◆パトロール当番予定表5月17日◆

～よろしくお願ひします～

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM 1	リーダー	小4	3 0 野澤 伶應
2			3 1 水上 由梨香
3			3 2 河野 夏帆
4			3 3 大川 佳太
5			3 4 堀 晃希
6			3 6 中邑 勇介
★PM 1	リーダー	小5	1 武川 智輝
2			2 赤松 和紀
3			3 浮田 耀
4			4 野口 優花
5			5 大塚 菜央
6			6 武正 隼

<転入> 立石優莉亜さん(小3 B) ようこそ、補習校へ。一緒に楽しく学習していきましょう。